【必ずお読みください】

「DJ-X11 Clone Utility」（以下アプリ）は DJ-X11 のオプションで、上級ユーザー向けにサービスとしてご提供するものです。メモリーに何も書いていない状態で出荷される輸出モデルユーザーへのサービスを第一にしているため言語も英語のみとなっています。

アプリが無くても DJ-X11 を使うことができるため、このユティリティは X11 ユーザーすべてにお使いいただく意図をもって開発されたものではありません。このため、アプリの操作についての個別サポートはしておりません。まずアプリをインストールして実際に操作したうえで、お使いいただけると判断された方のみ自己責任でお使いください。無線機への読み書き以外の操作はケーブルなしで全て行うことができます。このアプリをお使いになるにはパソコンの基本入力操作以外に、コントロールパネルにあるデバイスマネージャーを見る、場合によっては自分でドライバーソフトを外部のサイトからダウンロードしてインストールする、データの保存と呼び出しができる、X11 の機能が理解できる、程度の知識が必要になります。

このアプリはフリー・ソフトウェアであり、いかなる保証も行いません。アプリをご利用になることで発生したハードウエア・他のソフトウェアやデータへのダメージなど弊社は一切補償致しかねますので、ご了承下さい。バグや無線機、ケーブルの不具合に関するご連絡は電子事業部ホームページのお問い合わせフォームで承ります。アプリのアップデートは製品の生産終了をもって終了します。新しく提供されるＯＳに対応できなくなくなる可能性がございますので予めご了承ください。

上記に同意していただいた方のみ ERW-7/8 ケーブルをご購入ください。アプリの著作権はアルインコ（株）が所有しますが、商業利用を目的としない限りご自由にお使いいただけます。

「DJ-X11 Clone Utility」は別売の ERW-7（USB ポート用）又はＥＲＷ－８を使ってＤＪ－Ｘ１１をパソコンに接続することでお使いになれます。

主な機能：

・ボリュームやスケルチレベルなどのデフォルト値の設定
・セットモードのパラメータ設定
・メモリー周波数データの入力やバンクリンクの関連付け
・初期設定のメモリーバンクのパーティションを最大 50 までに変更
・編集した上記データの保存・書き換え・他の DJ-X11 へのクローン
・任意の文字やアイコンを８文字分作成・登録

＊　アプリは、Windows, Windows Vista, 7,10 での動作確認を行っております。共に管理者権限でインストールを行ってください。ウインドウズはマイクロソフト社の商標です。

＊　アプリは最新ファームウエアのユーザーを対象にしております。このアプリで使うケ

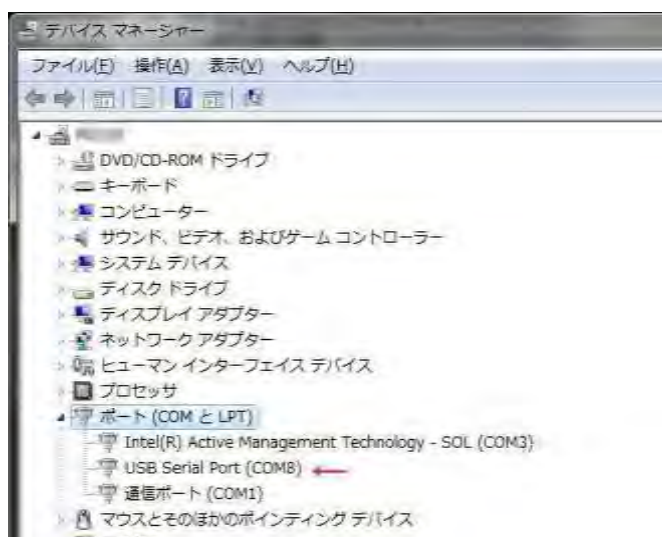
ーブル類をお持ちであればファームウエアのバージョンアップも同様に行えます。２０１３年以降に新品でご購入の X11 であれば、この必要はありません。ファームウエアについての説明は本書をダウンロードされたリンクのすぐ下にあります。

＊ファームウエアのアップデートと異なり、書き込み・読み込み中にエラーやフリーズなどが発生しても、X11・アプリとも再起動すれば初期状態に戻ります。但し保存していないメモリーデータは失われることがあります。弊社のオリジナルのメモリーデータはホームページの問い合わせフォームからお持ちのＸ１１の製造番号（S/N M******）を書いて「Ｘ１１のメモリーデータ希望」とご請求ください。自分の作ったデータは必ず保存してから読み書きの操作をしてください。

セットアップ

【アプリのインストールと削除】

ダウンロードした DJ-X11 Clone Utility xxx を解凍、任意の場所にフォルダを置きます。DJ-X11 Clone Utility. xxx を実行するとデフォルトではＣドライブの Program Files に同名のフォルダができ、デスクトップにアイコンがでます。アイコンをクリックすると画面が開きます。削除はウインドウズの通常操作で（７であれば「プログラムと機能」）アンインストールしてください。

ケーブル（ＥＲＷ－７／８）をパソコン本体の USB ポートに挿します。コネクターのＬＥＤが光り、接続準備が始まります。ウインドウズにドライバーがインストールされていれば、ケーブルをパソコンに挿入してウインドウズのデバイスマネージャーを開くと“ポート（ＣＯＭとＬＰＴ）”に、ＵＳＢ　serial　port(COM*)が表示されます。この（ＣＯＭ＊）の後ろの数字を覚えておきます。

ケーブルをつないでも準備が始まらず、表示もされないときはこちらをご覧ください。

http://www.alinco.co.jp/division/electron/softdl03.html

接続について

【ERW-7 のみ】

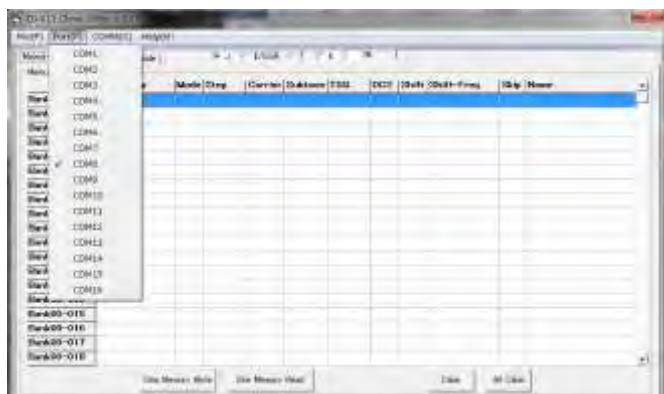
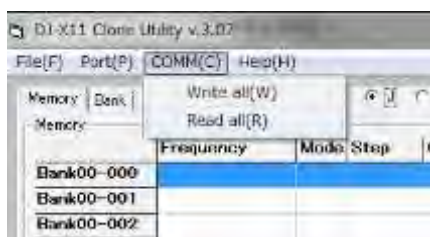
プログラムを立ち上げ、ERW-7 のプラグを、電源を切った DJ-X11 のイヤホンジャックに接続します。DJ-Ｘ１１の電源ボタンの上にあるＭＯＮＩキーを押したままで電源を入れ、クローンモードにします。CLONE 57600bps が表示されます。

【ERW-8 のみ】

＊ERW-8 をお使いの場合は、EDC-174 の後ろに USB ミニプラグを接続します。ERW-8 ではクローンモードに入る必要はありませんが、セットモードにて＜キー操作設定＞のリモート通信ポート設定を「有効」にしてください。（説明書Ｐ．７４で操作方法を覚えて、Ｐ．８８のイラストを参考に有効を選択）

＊　ＤＪ－Ｘ１１は従来の弊社製無線機に比べてクローンの対象になるメモリチャンネル部分のデータ量が格段に多いため、「全ての読み出し・書き込み」コマンドを終了するには数分の時間がかかります。今まで別のユティリティをお使い頂いていた方にはかなり重く感じられると思いますが、異常ではありません。

アプリの起動とデータ読み込み

DJ-X11Clone Utility　アイコンをクリックすると画面が開きます。

＊Port メニューのプルダウンで、先ほど覚えておいたＣＯＭポート番号を選択します。

＊COMM メニューで Read all(R)をクリックします。接続が正しければ画面右上に青いプログレスバーと進捗を示す数字が%表示され、現在 DJ-X11 に入っているメモリーデータ

が画面に読み込まれます。100%になると Finish 画面になるのでＯＫを押します。

データの保存と呼び出し

＊File メニューから Save を選びクリックします。「名前を付けて保存」ダイアログが開くので適当な名前を付けて（ここでは X11 エアバンド)、任意のフォルダ（ここではデスクトップに予め作っておいた「DJ-X11 データ」フォルダ）を選んで「保存」をクリックします。アプリに Save File が表示されるのでＯＫを押します。メモリーデータが保存されました。（拡張子.X11）このファイルは削除せず、バックアップとして必ず保存してください。

呼び出すときは File メニューから Open(O)を選びクリックします。ダイアログが開くので先ほど保存した場所にあるメモリーデータファイル（ここでは X11 エアバンド.X11）をクリックして選択、「開く」ボタンを押します。データが読み込まれ、Read File が表示されます。ＯＫをクリックして消します。メモリーデータはこのように保存、呼び出しをします。幾らでも好きな数だけ名前を付けてメモリーデータを保存できます。

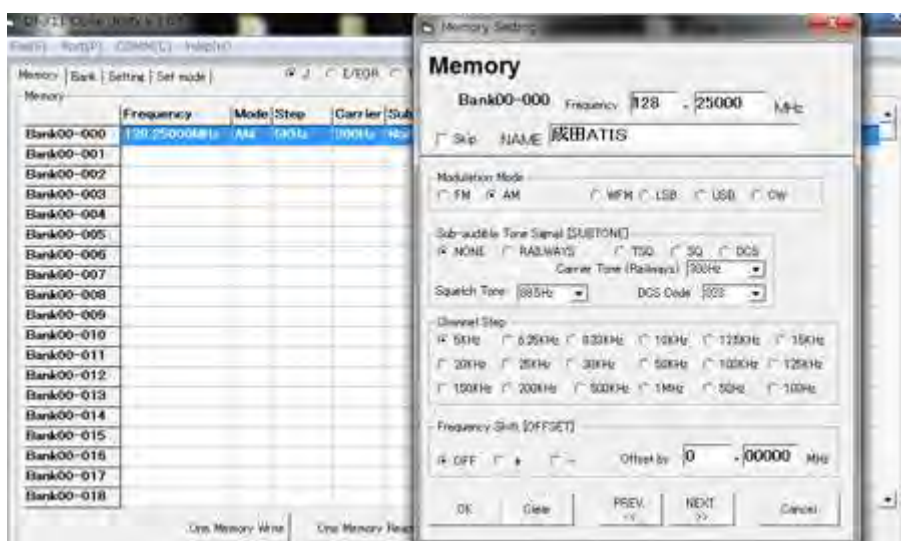
【ご注意】

このアプリは編集の途中で間違った操作をしたら反応しなくなることがあります。このため、編集中は作業途中でもこまめにファイルをセーブしておくことをお勧めします。

新しいデータを作る

ここで練習用仮データを作ります。それを書き込んで無線機にどのように反映されるか見るためですので、たくさんの周波数をメモリーする必要はありませんが、できるだけ多くの項目の値を変更してください。先ほど保存したバックアップデータを上書きすれば元に戻るので心配要りません。（オールリセットすればパソコンを使わなくても機能を初期値に戻せ、メモリーデータを消去できます。）

＊先ほど読み込んだバックアップ用データが保存されていることを確認して、アプリの右上端にある赤いＸボタンでアプリを終了します。終了前に「終了しますか？」のような警告は出ません。改めて起動すると何も書かれていない真っ白な画面になります。例としてバンク０の０チャンネルに 128.250MHz の成田 ATIS、ＡＭを書きます。Bank00-000 と書かれた行をクリックすると青に変わり、Memory タブが表示されます。Frequency の左がメガヘルツ単位、右がキロヘルツ単位です。例えばＡＭ放送の周波数のようにキロヘルツのときは右側だけに半角で数字を入れます。

ＮＡＭＥは全角８文字までです。表示できる文字は説明書Ｐ４３～４７の表をご覧ください。フォントが無い場合は X11 に■で表示されます。モードはＡＭ，トーンやシフトを使わないときは初期値のままで構いません。入力が終わったら左下のＯＫを押します。Memory ダイアログが消え、Ｍｅｍｏｒｙタブの Bank00-000 行に数値が入力されます。

バンクのサイズを換えたいときは Bank タブを開きます。初期値は１２バンク、各１００ｃｈが書き込める設定です。使いたいバンク番号に、そのバンクに割り当てたいチャンネル数を半角数字で入力します。次のページにあるイメージはバンク 10 からバンク 14 を 25ch 入れられるバンクに変更して、19 バンクで 100ch 使う設定に変更した例です。右下の数字が 1200 丁度で黒になっている事を確認します。赤文字の時は間違った設定です。バンクサイズを換えるときはまずこちらで設定を変えてから Memory タブで編集します。

＊　チャンネルが割り当てられていない未使用バンク番号は表示されません。

＊　割り当てていてもメモリーデータが何も書かれていないバンクは表示されません。
　　書き込みをすると見えるようになります。

＊　BANK-LINK ボタンをクリックすると説明書Ｐ．５３のバンクリンク設定ができます。
　　マスをクリックして、リンクさせたいバンクを指定します。

設定の項目は Setting タブで行います。本体のキーやダイヤルを使う操作の初期設定値です。初期値の変更で、機能を固定するものではありません。セットモード項目の変更は Set mode タブで行います。それぞれのメニューごとにグループ分けされています。説明書のＰ．７３を参照してください。手で切り替える設定をパソコンでするだけです。

＊　ICON EDITOR をクリックすると、自分でアイコンや文字（以下これを外字と呼びます）を８つまで作れるパネルがポップアップします。□をクリックして塗りつぶすことで文字や絵を作り、左の ICON SELECT ボックスで何番に登録するか選択します。
ここで作った外字を表示させるには外字登録の時に選んだ番号を①、②のように丸数字で Memory ダイアログに入力します。（例：山田太郎の郎を４に外字登録した＞山田太④と入力）

Set mode タブは本体のセットモードで設置する項目です。説明書のＰ．７３セットモードを参照してプルダウンから希望の設定を選びます。Display の Startup message は、電源を入れたときのアニメーションです。何も書かないとオリジナルのアニメーションになります。自分が書いた文字を動かす、動かさない、は Stationary か Scrolling で選びます。

ともかく各タブの項目を全て入力して、適当な練習用データを作ってください。

＊変更したデータをそのまま無線機に書くときはＣＬＯＮＥ状態にした X11 を接続してWRITE ボタンを押します。メニューの WRITE ALL でなく、各ページにある WRITE/READ ボタンで、そのページごとの設定だけを書くこともでき、その方が作業は早く済みます。

作ったデータを書きこむ

データを保存した場合は、前述の呼び出し方法を参照して、File メニューの Open からダミーデータを読み込みます。Ｘ１１をパソコンに接続した状態ならそのまま書き込みをします。ＣＬＯＮＥモードになっていることを確認してください。
＊COMM メニューから Write all(W)をクリックします。ＷＡＩＴが表示され、右上端のプログレスバーが表示され、進行状況が％で表示されます。データが多いほど時間がかかります。
終わったら「Success ALL DATA WRITE」が表示されます。
Ｘ１１の電源を入れなおします。操作して、変更がどのように反映されたか確認してください。

データを CSV 形式で編集する

上級者向けの機能です。Csv ファイルの編集に関するパソコンの知識が必要です。データを書き間違えても X11 への影響は有りませんが、エラーデータとして書き込めなくなります。どこを書き間違えたかの解析は弊社では行っておりません。

File メニューの Export (E)をクリックすると「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。今アプリに表示されているデータを CSV 形式で保存したい任意のフォルダを選び「ファイル名」に任意の名前を付けて（例：ダミーX11）、「保存」をクリックします。ダミーX11.csv ファイルが保存されます。クリックするとアプリ編集画面で入力したデータが CSV 形式で表示されます。ダミーデータに色々な設定を書いてあるほどどのように反映されるかが分かります。
バンクサイズはここでは変更できません。予め、アプリ側で変更してからエクスポートしてください。ここでも実用データを作る前に、簡単なダミーデータを書いて、それが反映されるかテストしてください。編集が済んだファイルはＣＳＶエディタ側のメニューで保存してください。
編集した CSV 形式のデータは File メニューの Import(I)からアプリに読み込めます。
（次のページに本項の追加説明があります。）

トラブルシュート

上手く動かない場合のほとんどは以下の原因です。

＊ERW-7/8 のドライバーソフトを事前に当てていない
＊クローンモードへの入り忘れ
＊ERW-8 使用時にセットモードでリモート通信ポート設定を有効にしていない
＊ｃｏｍポートの設定ができていない（ケーブルを抜き差ししたことでポート番号が変わっている ）
＊管理者権限でアプリをインストールしなかった。
＊進捗表示%枠の左側にあるバージョン設定セレクターをＪ以外にしている。
（Ｊが日本仕様）

まれにＥＲＷ－７とＰＣの相性によって、途中で読み込み・書き込み動作がフリーズする場合、ＣＬＯＮＥ表示の時にＭＯＮＩキーを押しながらダイヤルを回すと通信速度が変えられます。低い数字にするほど書き込みに掛かる時間は長くなりますが、相性問題が解決できる場合が有ります。アプリがセッションの途中でフリーズしても無線機にはダメージはありません。強制終了して再度開き、無線機はクローンモードに入り直すだけで改めて操作ができます。

以上

アルインコ（株）電子事業部

＝＝＝

【CSV編集に関する追記】
「データをCSV形式で編集する」に「バンクサイズはここでは変更できません。」と記述してある件、こちらで詳細をご説明します。

CSVファイルにはセットモード項目やバンク情報に関する情報が一切書かれていません。
このため、CSVはバンク切り分けに関係しない、メモリーCH内容の編集（データ上書き、並び替え変更、消去など）のみが可能です。

また、ソフトの動きは『エクスポートをする直前のバンク、機能設定情報が、そのまま保持されている』です。

従い、バンクの切り分けや機能関連のパラメータまで変える編集であれば：
1)バンク切り分け、セットモードや機能等のカスタマイズを含む編集後のデータを
　まず.x11として保存　(例：fileA.x11)
2)それをエクスポートしてエクセルやエディタでメモリー内容だけ編集、保存(例：fileB.csv)。
　この時fileA.csvとバンク数やチャンネル数が整合するように注意して編集。
3)Clone utilityは立ち上げなおしても、そのままでも良いのでfileA.x11をfileメニューのOpenで
　読み込む。
4)この状態でfileB.csvをインポートする。

以上